このページのテーマ

大隅の地域医療

鹿児島のドクターに聞く 私たちのこころとからだ

メンタル＆フィジカルトリートメント

不調を感じたり、病気になったりしたときに「どこの病院に行けばいいかわからない」という声を耳にします。住み慣れた地域で暮らし続けるための医療機関の役割について、黒肱先生にお聞きしました。

Q 地域医療についての先生の基本的なお考えをお聞かせください。

A 最近の傾向として、自分が住んでいる地域に限らず、「いい医療」を求めて県内外の医療機関にまで足を運ぶ方々が増えているように見受けられます。しかし医療とはみんなが受けられるベネフィットであるはず。どこに住んでいようと、その方に適した治療を受けられるべきだと私は考えています。そのためにも、地域医療の充実はとても大切なファクターです。

Q 患者のトータルサポートという点から、地域医療に求められているものは？

A 治療や手術はもちろん、患者さんが住み慣れた地域でずっと暮らし続けられるよう、在宅まで視野に入れたトータルなサポートを行うのが医者の仕事であるとの思いから、私は他の分野の医師や医療機関ともコミュニケーションを密にして、チームで協力体制を作れるようにしています。

発見されたがんの約25%が早期がん、残りの約75%は進行がんであるということを鑑みると、1回の手術だけでなく、5年、10年先までを予想した治療計画を立てなければなりません。私たちは医者サイドからの治療ではなく、患者さんの立場に立って、患者さんが安心できる医療を行いたいと考えています。ぜひ一度ご家族も交えて、退院後の生活についても納得のいくまで相談してみてはいかがでしょうか。

大隅地域の医療の充実のため、日夜尽力している黒肱副院長

Q 先生がどのようにして大隅地域の医療に取り組んでおられるのか、または理想とする医療について教えてください。

A 私が「地域の患者さんは、その地域で診るのがいい」と思うのは、予後もずっと診ていくことができるからです。例えば手術が本当にその人のためになったかどうかは、時間がたってみないとわからない部分があります。その際は、外科とコメディカルの信頼が病院の核となりますが、地域の皆さんに「この病院があるから安心して暮らせる」と思ってもらえるようになりたい。そのために看護の内容も年々上がるよう努めています。

私の恩師からいただいた「あまねく医療を広めなさい」という言葉を胸に、大隅地域の方々が、文化的にも充足し、心豊かに暮らせるお手伝いをしていきたいと常日ごろ考えています。

Q 大隅地域の医療の充実のため、昭南病院の取り組みの一例をお聞かせください。

A 昭南病院では、最近幾つかの装置を導入しました。8月に導入したCT装置は、広範囲の撮影を一回の息止めで短時間に撮影できるため、患者さんに負担なく鮮明な画像を得られるだけでなく、心臓の血管撮影も可能となりました。

9月に導入したMRI装置は、従来型よりも内部が広く、圧迫感が少なくなり、また、更に強力な磁石を利用することにより、短時間で高画質な画像が撮影できるようになりました。

同じく同時期に導入した骨密度測定装置は、腰椎と股関節での測定が可能となり、診断能力と再現性が格段に向上しました。

このように、昭南病院では最新の医療装置を充実させ、それらの機能を十分に活かして、大隅地域の医療の充実に日夜取り組んでいます。

お答えいただいたDr.

昭南病院

黒肱 敏彦 副院長

Toshihiko Kurohiji

Profile

久留米大学医学部卒業

- ●日本消化器外科学会指導医
- ●日本超音波医学会指導医
- ●日本外科学会専門医
- ●日本消化器外科学会専門医
- ●日本消化器病学会専門医
- ●日本超音波医学会専門医
- ●日本胆肝膵外科学会評議員
- ●胆肝膵高度技術指導医
- ●日本消化器外科学会消化器癌化学療法認定医、他

昭南病院 DATA

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30～12:30	○	○	○	○	○	○	／	／
14:00～17:00	○	○	○	○	○	／	／	／

TEL099-482-0622

- ■住　所／曽於市大隅町下窪町1番地
- ■HP URL／http://www.aisekai.com/
- ■駐 車 場／100台
- ■アクセス／東九州自動車道曽於弥五郎インターから車で3分
- ■関連施設／ケアセンターやごろう苑、北地域診療所、大隅地域訪問看護ステーション、大隅町在宅介護支援センター、総合在宅ケアセンターやごろう苑、他

mental and physical treatment Vol.3
私たちの身近にある様々な病気や悩みについてのアドバイス、専門の病院の紹介など、健康に役立つページ シリーズVol.3

このページのテーマ

人間ドックと健診の重要性

鹿児島のドクターに聞く 私たちのこころとからだ

メンタル＆フィジカルトリートメント

充実した人生を送るためには、「健康であること」「病気にならないこと」が大切です。そのためにはどうしたらいいのでしょうか。約20年間、健診・ドックに携わってきた愛甲先生に詳しくアドバイスをいただきました。

Q 人間ドックは、なぜ必要なのですか？

A 一見元気そうな方でも、実は見えない病気が進んでいることがよくあります。医療には「予防医学」と「治療医学」がありますが、現在注目されているのが「予防医学」です。

日本人の三大死因に挙げられるがんや脳血管疾患、心疾患を引き起こすと言われている糖尿病・高血圧・脂質異常症などの生活習慣病は、ある日突然なるものではありません。本人が気づかないうちに進行し、自覚症状が現れるときには取り返しのつかない段階になってしまっていたというケースも少なくないのです。

「元気だった人がある日突然倒れた」。こんな話を耳にすることもあるのではないでしょうか。そこで早い段階で異変に気づき、病気が重くなることを防ぐ予防医学が大切となります。人間ドックで早期に病気の芽を見つけて治療を始めれば、完治させることもできます。自分の健康を管理するためにも、長期にわたって生活習慣病にからないための努力を、家族ぐるみで実践することが大切なのです。病気になりやすい傾向を認識し、注意することは健康な人生を守る第一歩。少なくとも2年に1回は健診や人間ドックを受けられるといいでしょう。

私が人間ドックに携わったこの20年を振り返ると、40代の働き盛りで異常が見つかる方が増えてきているように思われます。健診・人間ドックに興味を持たれたときが、ご自身の健康を顧みるいい機会となるでしょう。

Q 人間ドックは、誰でも受けるべきでしょうか？

A すでに治療中の病気についての相談とか、或いは自覚症状があって具合が悪くて困っている人の病気の診断や治療については、人間ドックは適していません。明らかに自覚症状のある人は、適切な診療科の外来を患者として受診し、その症状を医師に訴えて診てもらう方が、効率的で間違いありません。早期発見・早期治療のためにも、人間ドックを上手に利用しましょう。

Q 人間ドックの内容を教えてください。また結果はどのくらい後にわかりますか？

A 人間ドックは、まず血圧測定や採血・採尿、身体・腹囲測定の後、腹部エコー、心電図、視力・眼圧、聴力、呼吸機能、眼底の検査を行い、胸部レントゲン、胃透視、MRI、CT、骨塩定量測定、内視鏡検査と進みます。昼食で休憩を取った後で担当医師から検査結果の説明と指導があり、必要な際には栄養指導も行っています。

当院（昭南病院）にはCTやMRIなどの画像読影を行う放射線診療専門医が常駐しているので、リアルタイムでの診断が可能。検査の当日に結果を知ることができます。治療が必要な場合は、地域の総合病院として多方面からアフターケアができるよう努め、生活習慣病の改善においても専門知識を持ったコメディカルが一丸となってサポート。一人ひとりの症状やライフスタイルに沿った治療法を提案しています。また患者さんのご希望に合った他の医療機関の紹介等も可能です。5年後も、10年後もずっと健康で暮らすために、ぜひ健診・人間ドックを利用してください。

人間ドック学会専門医として、予防医学を推奨・実践している愛甲医師

お答えいただいたDr.

昭南病院

愛甲 進 医師

Susumu Aikou

Profile

鹿児島大学医学部卒業

- ●人間ドック学会専門医
- ●産業医

昭南病院 DATA